

第 7 回

掛川考古展

—— 古 墳 ——



とき——
昭和63年11月1日～3日

ところ——
掛川市生涯学習センターギャラリー2階

掛川市教育委員会

開催にあたって

第7回「掛川考古展」を開催することになりました。

掛川考古展は昭和56年7月11日に設定した「掛川市考古の日」(5月21日)を記念して、その翌年度から実施してまいりました。

今回は古墳時代をとりあげます。土を高く盛った高塚式の墳墓すなわち古墳をテーマにして展覧いたします。

古墳の造られた期間は、おおむね3世紀後半から7世紀後半までの400年間であります。古墳は、大和朝廷が国家統一を進めた初期の段階に発生し、勢力の伸展とともに地方へも波及しました。そして、大化改新後は急速に衰退し、仏教文化の伝来とともに火葬が普及して、次第にその姿を消していったのであります。

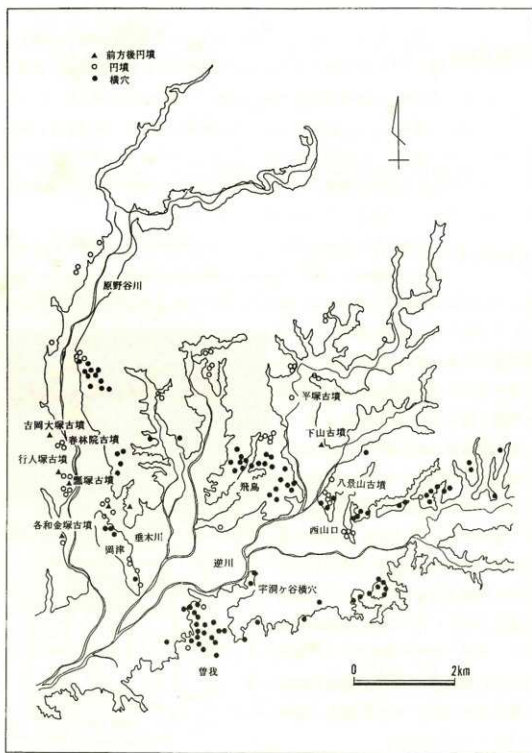
このたびは、これまで実施してきた発掘調査から出土した遺物をととして、古墳時代における葬制の一端をご覧いただきたいと存じます。

この機会に多くの方々が優れた出土文化財をととして、掛川市域の歩みをふりかえり、郷土の先人の遺した文化遺産の重要性を認識していただければ幸いです。

昭和63年11月1日

掛川市教育委員会

教育長 西ヶ谷 兎志雄



古 墳 分 布 図

遺跡を代表するものに古墳があげられます。「遺跡＝古墳」と古墳とは 聞くことが時々ありますがそれは間違いで、古墳は遺跡の種類の一つで、例えば貝塚とか集落跡などと同一です。それでは「古墳とは」いったいどんな遺跡の種類のことを指すのでしょうか。辞書によると「古墳とは、高い盛土をもつ古い墓をいい、高塚ともよばれた。」とあります。今回の展示では掛川市内に所在する古墳を資料にして、1 古墳の形、2 埋葬の形、3 副葬品の面から、古墳について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

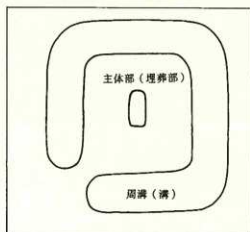
古墳の形は平面の形によって、前が四角く後が丸い“前方後円墳”・四角い“方墳”・丸い“円墳”などに分けられます。その他、山の斜面に穴を穿ち造られた“横穴”があげられます。また古墳時代に造られたお墓のもう一つの種類に“方形周溝墓”があります。展示では、市内で発見された方形周溝墓・前方後円墳・円墳・横穴について紹介します。

方形周溝墓 弥生時代（市内では紀元前後～3世紀）から造り始められたお墓で、古墳時代前期（4世紀始め）まで造られました。四角い平面形に盛土され、死者は木の棺に入れられその中央に埋葬されました。そして、四角く盛土されたお墓の周りには溝が掘られています。市内で発見された古墳時代の方形周溝墓に、大六山遺跡（満水）・踊原遺跡（満水）・女高遺跡（高田）のそれがあげられます。

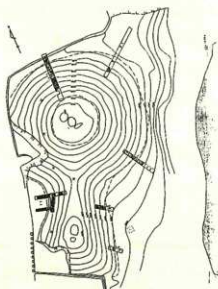
前方後円墳 市内で発見されたものはすべて古墳時代中期（5世紀）のも



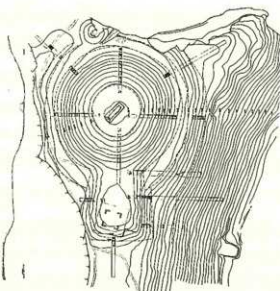
大六山遺跡（満水）の方形周溝墓



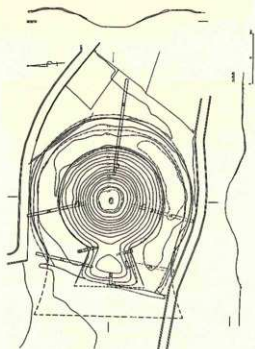
方形周溝墓模式図



瓢塚古墳



各和金塚古墳



吉岡大塚古墳



前方後円墳

ので、和田岡古墳群の吉岡大塚古墳（吉岡）・瓢塚古墳（高田）・行人塚古墳（高田）・各和金塚古墳（各和）・高代山4号墳（細谷）・そして県下一大きいといわれている下山古墳（西郷）があげられます。

円墳 平面形は丸く半円状に盛土され、死者は頂上の中央部に埋葬されています。そして古墳の周りには、溝がめぐっています。市内で発見されている円墳は、古墳時代中期（5世紀）～古墳時代後期（6世紀～7世紀中頃）のものがほとんどですが、萩ノ段古墳

（原田）のように奈良時代（8世紀）に造られた古墳もあります。市内に所在する円墳は、原田・本郷・和田岡・岡津・曾我・上垂木・下垂木・上西郷・下西郷・西山口など、各所でみられます。ここでは、和田岡古墳群の一つ



春林院古墳全景

春林院古墳（吉岡）を紹介します。

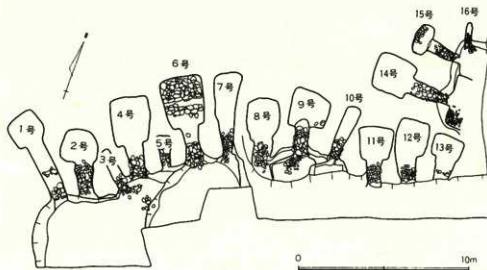


春林院古墳全景（航空写真）

横 穴 これまで紹介してきた古墳は、台地の平坦な所あるいは山の尾根筋などに高く盛土して造られた高塚のお墓でしたが、ここで紹介する横穴は山の斜面に穴を穿って造られたお墓です。市内で発見されている横穴は、古墳時代後期（6世紀中頃）～奈良時代（8世紀）に造られたものがほとんどです。市内では宇洞ヶ谷横穴（下俣）・山麓横穴（下俣）などの例外はありますが、横穴はそのほとんどが他の古墳とは異なり、一基ずつ点在することはなく数基あるいは十数基が群をなして発見されます。市内に所在する横穴は、本郷・曾我・下垂木（飛鳥）・西山口・上内田の各地区で特に集中してみられ、その他上垂木・細谷・南郷・水垂などにみられます。ここでは宇洞ヶ谷横穴・岡津横穴群^{じようや}・上山横穴^{べつしよ}・別所横穴を图示して紹介します。



岡津横穴群B群全景

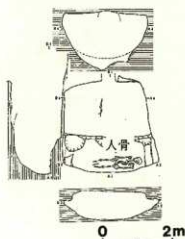


岡津横穴群B群全体図

古墳で死者を埋葬した場所を“主体部”^{しゅたいぶ}と呼び、横穴では“玄埋葬の形^{げん}室”^{しやうしつ}と呼んでいます。ここでは、古墳の主体部の形にはどのようなものがあるのか、遺体の安置場所はどこかをこれまでに市内で調査されたものにより紹介しましょう。

古墳の主体部の形には、右図に示したようなものがあります。つまり各和金塚古墳・高代山3号墳に観られるような竪穴式石室、春林院古墳・八景山古墳（水垂）などに観られるように粘土^{もつかん}が木棺を包み込んだ粘土柳^{なんどかく}、平塚古墳（上西郷）・長福寺1号墳（本郷）などに観られるような横穴式石室、木棺を直接埋土した木棺直葬^{もつかんじきさう}などが市内で調査した古墳の主体部です。

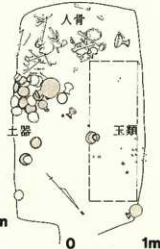
古墳時代でも遺体は木の棺桶（木棺）に入れたと思いますが、棺桶は玄室^{くみあわ}のどの部分に置かれたのでしょうか。右図の平塚古墳のように（組合せ式箱形）石棺^{せきくわん}のあるものでは明確にわかりますが、下図に観られるように上山横穴では玄室の奥壁部、宇洞ヶ谷横穴では玄室の中央部、別所横穴では最終埋葬時に奥壁^{おくへき}に向って右側壁部に埋葬されたようで、それぞれの場合によって異なります。



上山横穴

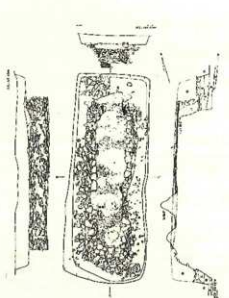


宇洞ヶ谷横穴

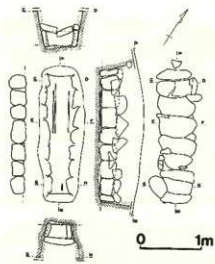


別所横穴

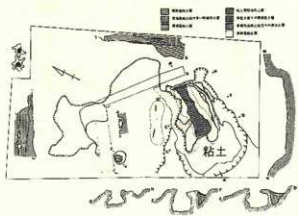
埋葬の状況



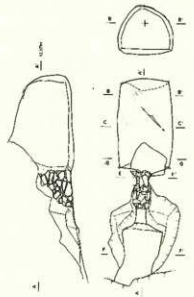
各和金塚古墳主体部 0 2m



高代山3号墳主体部



春林院古墳主体部 0 2m

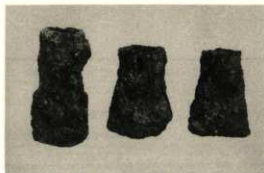


別所横穴 0 2m

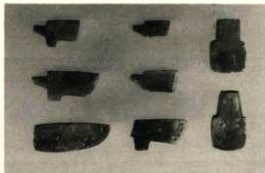


平塚古墳主体部

主体部のいろいろ



鉄斧（各和金塚古墳）



石製模造品（各和金塚古墳）



変形神獸鏡（宇洞ヶ谷横穴）



環頭大刀柄頭（宇洞ヶ谷横穴）



飾大刀（宇洞ヶ谷横穴）



鉄地金銅張鞍金具（宇洞ヶ谷横穴）



出土土器（宇洞ヶ谷横穴）



出土玉類

年 表

西暦	時代	国内のうごき	国内の主な遺跡	掛川の主な遺跡
三世紀	弥生時代 (後期)	- 卑弥呼、魏に朝貢 - 古墳の祖形と言える墳丘墓出現	登呂遺跡(静岡) 唐古遺跡(奈良)	女高遺跡(高田) 瀬戸山I遺跡(古岡)
四世紀	古 (前期)	- 前方後円墳の出現 - 古墳の埋葬施設に竪穴式石室や粘土槨が用いられる - 埴輪の出現	箸墓古墳(奈良) 椿井大塚山古墳(京都) 新豊院山D-2号墳(磐田) 松林山古墳(磐田)	踊原遺跡(満水)・大六山遺跡(満水)など
四世紀末～五世紀	墳 (中期)	- 平野に大規模な古墳が造られる - 家・人・馬・鶏などの埴輪の出現 - 横穴式石室の出現 - 木棺直葬の出現 - 朝鮮から須恵器の技術伝来	菅田山古墳(応神陵、大阪) 大山古墳(仁徳陵、大阪) 堂山古墳(磐田) 兜塚古墳(磐田)	各和金塚古墳(各和) 瓢塚古墳(高田) 吉岡大塚古墳(古岡) 春林院古墳(古岡) 八景山古墳(水垂)
六世紀	時 (後期)	538年 仏教公伝 592年 推古天皇即位 593年 聖徳太子摂政となる - 埴輪の衰退 - 横穴式石室・横穴の普及	埼玉古墳群(埼玉) 藤ノ木古墳(奈良) 飛鳥寺(奈良) 四天王寺(大阪)	山麓横穴(下俣) 宇洞ヶ谷横穴(下俣) 平塚古墳(上西郷) 別所・飛鳥・岡津・新田・南坪等の横穴群
七世紀	代 (終末期)	607年 法隆寺建立 622年 聖徳太子死去 641年 山田寺建立 645年 大化改新 - 古墳の新たな築造はほとんど行なわれない - 畿内では横口式石槨が用いられる - 古墳の副葬品が減少する	法隆寺(奈良) 山田寺(奈良) 高松塚古墳(奈良) 天武・持統天皇陵(奈良) ヤマト古墳(奈良) 鬼の岡・鬼の組(奈良)	
710年	奈良時代	752年 東大寺大仏開眼供養	太安萬侶墓(奈良)	南坪10号墓(高御所)

